スイスで感じた英語の魅力

古屋千紘

私はスイスでの交流事業を通して、英語を使うことで世界中の人々とつながることの楽しさを実感した。

スイスに行く前は自分の英語が相手に伝わるか不安だった。学校で英語は勉強していても、実際に外国の方と英語で会話した経験は少なく、自分の言いたいことをうまく伝えられないと思っていた。しかし、実際に現地で会話した時には、思っていたよりも言葉が伝わりとても嬉しかった。また、私は英語の発音に苦手意識があったけれど、現地の方たちは優しく丁寧に聞いてくれて、安心して話すことができたし、自信にもつながった。この経験から、いつも完璧に話そうとするのではなく、相手に伝えようとする気持ちが何よりも大切なのだと気づいた。

さらに意外だったのは、現地の人と話す内容が、日本で友達と話す内容とほとんど変わらなかったことだ。言葉や文化が違っていても、普段の生活や身近な話題について話し、一緒に楽しい時間を過ごすことができた。この経験から、国が違っていても、同じように会話を楽しみ、お互いを知ることができるのだと感じた。そして、英語は単に情報を伝えるためのものではなく、国境を越えて人と人との距離を縮め、つながりを作るための大切な手段なのだと学んだ。

また今回の事業をきっかけに、英語を使って様々な国の人々と関わる仕事にも興味を持つようになった。英語が話せるようになれば、交流できる人の幅が広がり、自分の知らない世界を学ぶ機会も増えると思う。

これからは、実際に英語を聞いたり話したりすることにも積極的に取り組み、間違いを恐れず自分の考えを英語で伝える力を身につけたい。今回の事業で感じた楽しさや自信を忘れず、英語を学び続け、将来は世界中の人々と自分の言葉で交流できるようになりたい。